

みずくらいど

校長 加藤雅弘

「深い笑顔」のもと

前号で、右側通行やあいさつについて取り上げました。次の日だけでなく、その後、あいさつは日に日に、立ち止まってする児童、遠いところからでも視線を合わせてしてくる児童が増えています。特に1年生は、ほとんどの児童ができるようになってきました。

朝、玄関にいと、遊びに出る児童の廊下歩行の様子も観察できます。そこでは、一緒に歩いている友達の腕を引っ張って右側に誘うなど、自分だけでなく、周囲へ働きかける行動も見られます。また、靴箱のところでは、他の児童の靴をそろえる児童がいます。2年生の児童もその一人です。昨日は、外履きが片方、落ちていました。私が気付いた時には、矢作さんの手が伸びて、片方しかない靴を探し始めました。色と形が一致する靴が見付かり、無事、持ち主の所に戻すことができました。自分が気が付かないところでこのような親切な行為が行われていることを大変うれしく思いました。

先日、キッズパレットのスタッフの方と話をしていた驚いたことがありました。それは、学校だよりの4月号の内容が気に入っていて、持ち歩いているというのです。「今もカバンに入っていますよ」と言われ、恐縮してしまいました。他の学校便りを目にする機会もあるらしく、皿沼小の学校便りについて、評価をいただいている、うれしさとともに、今後、学校便りを執筆する際のモチベーションも高まりました。

4月号のタイトルは「いるだけで幸せ、元気が出る皿沼小」。異動や退職する教職員が、皿沼小を去られるときに話された内容と、その要因を私なりに考えたことを掲載しました。その中に「深い笑顔」という造語で、本校の空気感を表現してみました。

今年度も、それを一層高めていきたいと考えてスタートを切りました。あいさつ、右側通行、靴そろえ、そして、落ちているものを元に戻す親切心など、「深い笑顔」の根底につながる言動が見られます。そして、それらは教員の声かけや指導があったとしても、多くは自分で考えた行動です。

足立区小学校の学校紹介を掲載したデータブックの本校の紹介の中にも6年生の児童が「笑顔」について書いていました。

「深い笑顔」がさらに増えるよう、教職員と児童が一丸となって進んでまいります。

（児童が書いた学校紹介）

私たちが思う皿沼小学校の良いところはたくさんあります。その一つを紹介いたします。それは、笑顔があふれていることです。皿沼っ子は挨拶がしっかりでき、自分で考えて行動ができるので、みんなが笑顔になります。ぜひ、笑顔あふれる皿沼小学校に入学してください。